



レオクラブは、1957（昭和32）年12月5日に、アメリカのペンシルバニア州アピントン高校の野球部監督ジム・グレーバーが提唱した青少年育成プログラムに始まります。

日本では、その4年後に「ライオンズ学生会」が結成され、将来の会員を育成するプログラムとして活動を開始しますが、レオクラブそのものが国際的に正式に認可されたのは、1967

（昭和42）年になってからでしたので、日本最初の正式なレオクラブは、その翌年結成の高知レオクラブでした。当初レオクラブのロゴは、一匹のライオンが咆哮するものでしたが、

後に双頭の獅子に置き換えられ、左の頭は“去への尊敬”、右の頭は“未来への自信”を表しています。会則により、14歳～17歳をアルファ会員、18歳～28歳をオメガ会員と区分していました。現在では最低年齢が12歳、最高年齢は30歳と定められています。

来年でレオクラブ誕生60年



人は誰でも老いる。そして、認知症を患う人も年々増加してきている。本学では、認知症の方々を支援できる人材育成として、以前から「認知症サポーター」の養成を行ってきたが、平成28年12月10日（土）、レオクラブ主催により、東口キャンパスの六階教室を会場に養成講座を開催した。当日は、午前中から雪が舞う荒天となつてしまつたが、学生と一般参加者を合わせて四十一人が熱心に受講した。



講師の社会福祉法人東北福祉会「せんだんの里」地域支援課の菅間雅子（かんままさこ）課長から、スライドや動画を交えた講義があり、認知症とは、また症状や予防等について、分かり易く実例を挙げながらの

説明があつた。レオクラブでは、受講者募集や当日の会場準備、受付や司会進行等を行い、参加者が円滑に受講できるように設定をして、一人ひとりを迎えた。講義の内容は、全国キャリアバン・メイト連絡協会が発行している「認知症を学び 地域で支えよう」を教材として、「認知症とは？」、「認知症の診断と治療」そして「予防」と広範囲な内容となつており、認知症の人への接し方と、認知症サポーター

認知症サポーター養成講座を開催

あなたも認知症サポーターになりませんか？

東北福祉大学レオクラブ通信

VOL. 2
【随時発行】



加齢による物忘れと認知症の記憶障害との違い

加齢による物忘れ	認知症の記憶障害
経験したことが部分的に思い出せない	経験したこと全体を忘れていく
目の前の人の名前が思い出せない	目の前の人や誰なのか分からない
物の置き場所を思い出せないことがある	置き忘れ、紛失が頻繁になる
何を食べたか思い出せない	食べたことじたいを忘れていく
約束をうっかり忘れてしまった	約束したことじたいを忘れていく
物覚えがわるくなったように感じる	数分前の記憶が残らない
曜日や日付を間違えることがある	月や季節を間違えることがある

※ 認知症サポーター養成講座標準教材「認知症を学び 地域で支えよう」より



菅間講師（前列左から二人目）とレオメンバー

接するためにもつとも重要であり、何か特別なことをする人ではありません」と締めくくった。

ちょっと豆知識！

ライオンは、現在はサハラ砂漠以南のアフリカ大陸とインド北西部でしか生息が確認されていないが、15,000年前にはヨーロッパにも広く分布しており、少なくとも5,000年前にはギリシアにも生息していたと考えられている。人に次いで広く分布していた大型哺乳類で、17～18世紀まではイランや東南アジアでも生息していた。

そのため、過去の王朝から現在の国々において、力の象徴として国旗や紋章にも用いられ、また国を象徴する動物（国獣）としてもイングランドやベルギー、スウェーデンやエチオピアなどで選ばれており、国のシンボルとしてはすべての動物の中で最も多い。